

7. 家庭生活の調査

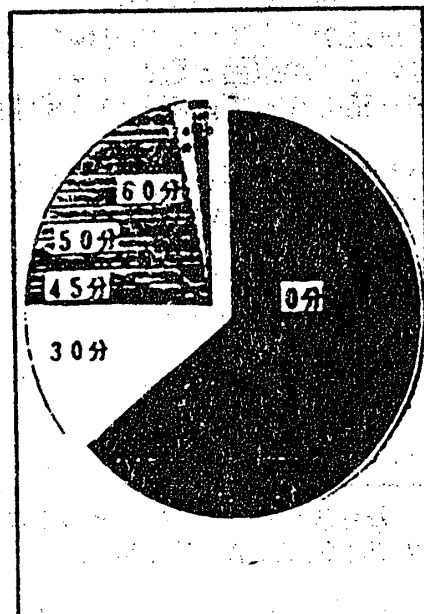
子どもたちが日頃、学校で遊んでいる様子を見ると、遊びに偏りがあり、遊具遊びをするにしても、十分に遊具のもつ楽しさを味わうことなく、興味の対象を移している子どもが多い。そこで、家での遊びの様子はどうか、という疑問から家での遊びの調査を実施した。また、学校での遊びの変化と、家での遊びの変化に見られる関連性から、家でも活発に子どもたちを動かすにはどうしたらよいかということを考える資料にもなるのではなかろうか。

(1) 調査方法

小学部の児童13名を対象に、9月5日から9月9日までの5日間、家での遊びの様子を中心に（他には 食事、睡眠、排便など）、各家庭に協力していただき、アンケート調査を実施した。

(2) 結果と考察

- ・毎日、外に出て遊んだのは13人中1人で、全く遊びをしなかったのは13人中5人で、外遊びの経験が少ない子どもが多い。
- ・外遊びが少ないが、では家の中で建設的な遊びをしているかというところでもなく、テレビや本を見ていることが多い。
- ・外遊びも、家の中での遊びも、子どもによってだいたい遊びの種類がきまっている。
- ・外遊びで一番多い自転車遊びは、乗って走ることを楽しむことが多く、自転車を仲立ちとして友だちと交わることは少ない。
- ・近所の子ともと遊ぶ場合も、同年齢の子ともと遊ぶのではなく、年齢が下の子ども（発達年齢が近い子ども）と遊ぶことが多い。



〈外遊びの記録〉

家に帰ってから外で遊んだ時間

- ・家に帰ってから外で遊んだ時間が5日間で、0分、つまり5日間全く外遊びをしなかった子どもが64.6%と、外遊びの経験が非常に少ないということがわかる。
- ・外遊びをしても、時間は30分から60分程であることもわかる。

※小学部児童13名の家庭調査より作成したグラフ
(9月5日～9月9日)